

第 60 回医療薬学公開シンポジウム 開催報告書

実行委員長 寺田 智祐
(滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部)

平成 27 年 11 月 1 日(日)にニプロ iMEP(滋賀県草津市)にて第 60 回医療薬学公開シンポジウム(主催:一般社団法人日本医療薬学会、共催:公益社団法人日本薬学会近畿支部、一般社団法人滋賀県病院薬剤師会、一般社団法人滋賀県薬剤師会)を開催しました。当日は、秋晴れの行楽日和のなか、182 名の方々が参加しました。参加者の内訳は、病院薬剤師 91 名、薬局薬剤師 22 名、大学教員 22 名、薬学生 44 名、その他 3 名でした。

本シンポジウムでは、大学教員・学生と病院薬剤師、そして薬局薬剤師が協働して臨床研究を進めていく上での道標を示すことを目的として、テーマを「医療現場と大学のコラボレーション～こうすればいいんだ、臨床研究～」に設定し、大学・病院・薬局の各分野で活躍されている 6 名の先生に講演していただきました。

まず、特別講演として、滋賀医科大学医学部医学科脳神経外科学講座教授の野崎和彦先生に「医学と医療:基礎から臨床への展開」と題した講演をしていただきました。野崎先生は、最初に「医療の常識は覆る」ということを様々な例を挙げて話し、続いてビデオを用いて脳外科手術の治療リスクについて説明し、さらに薬剤と脳血管疾患との関係についての最新の臨床研究や、遺伝子診断・バイオマーカー等の先制医療についての解説をしていただきました。

次に、シンポジウム 1 として、京都薬科大学臨床薬学教育研究センターの松村千佳子先生から「一般病院とのコラボレーション」について、立命館大学薬学部医療薬剤学研究室の上島智先生から「大学病院とのコラボレーション」について、パスカル薬局の横井正之先生から「薬局薬剤師によるエビデンス作り」についての講演があり、大学と病院あるいは薬局との共同臨床研究の進め方について説明していただきました。

そして、シンポジウム 2 として、京都薬科大学微生物・感染制御学分野の後藤直正先生から「基礎薬学の立場から臨床現場に貢献できること」という題目で、緑膿菌の抗菌薬耐性などについての講演がありました。最後に、京都大学医学部附属病院臨床研究総合センターの福間真悟先生から「薬学研究者が知っておきたい臨床研究デザイン:新しい倫理指針から学ぶ」という題目の講演があり、新しい統合倫理指針のポイントについての解説をしていただきました。

シンポジウム全体を通じて、質疑応答の時間には薬学生を含む多くの参加者から活発な発言があり、盛会裡に終了しました。本シンポジウムが、大学・病院・薬局における臨床研究の一助となれば幸いです。